



第17回世界スカウトジャンボリー（韓国）にて（平成3年）

そこで起死回生の手段として取り組んだのが「世界スカウトジャンボリー」の日本開催、つまり誘致計画です。山口県には「きらら浜」という大きな都市公園を含む干拓地があります。オーストラリアと韓国で開催された「世界スカウトジャンボリー」に指導者として参加した経験から、私は、この「きらら浜」なら世界スカウトジャンボリーが開催できるのではないかと考え、山口県に相談した結果、当時の二井知事には大変なご決断

だのです。平成6年のことです。

平成8年には、ボーイスカウト山口県連盟の理事長に就任し、多くの指導者と共にスカウト活動のサポートを続けてきました。ところが予測されていたとはいえ、「少子化」の波が徐々に私たちの活動にも押し寄せ、ボーイスカウト人口は、昭和60年前後から徐々に減少し始めました。（公財）ボーイスカウト日本連盟も危機感を募らせ、さまざまな対策を打ち出しましたが、スカウト数の減少は一向に止まりません。

をいただき、誘致を承諾いただきました。

山口県以外にも複数の県から「誘致をしたい」との希望があり、プレゼンテーションの結果、幸いにも山口県が国内候補となりました。次は世界ジャンボリーを誘致したいと名乗りを上げているシンガポールと一騎打ちを制しなければなりません。平成20年、韓国済州島で開催された世界スカウト会議で、山口県きらら浜での開催が決定された時は、本当に心の底から喜びが湧き上がってきました。

世界のスカウトとの交流 〜世界平和への架け橋〜

済州島から帰国し、3カ月後に投票票が実施される市議会議員選挙（5期目）の準備にとりかかりました。光市では、市長選挙と議員選挙は同日選挙となっておりますが、当時の市長はその選挙には出馬しないと宣言されていました。

そういう状況の中、私の同級生を中心に、「市川、市長選に挑戦しないのか」と言われ続け、とうとう市長選の2カ月半前に出馬を決意し、61歳にして初当選を果たしました。

一方で、ジャンボリーの準備も着々と進み、平成27年7月28日に、155の国



第23回世界スカウトジャンボリー（山口県）（平成27年）

と地域から3万3000人の参加者を得て、盛大に開催することができました。このジャンボリーで特筆すべきことは、山口県と県内19市町の協力で、県内全ての小中学校、特別支援学校に世界のスカウトが訪問し、交流を深めたことでした。その様子を見た私は、世界の将来を担うこの青少年たちが、必ず世界の平和に向けた活動を推進してくれるであろうと確信しました。少子化は私たちのまちだけでなく、こうした活動にも大きな影響を与え続けています。ボーイスカウト活動は「野外での体験を主とした活動」「異年齢グループでリーダーシップを涵養する」「褒めることでやる気を起こさせる」など、こういう時代だからこそ必要な要素をたくさん持っていると感じています。こういう活動が今一度、多くの皆さん方の注目を浴びてほしいと願っています。